

平成29年度 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業
(通級による指導担当教員等専門性充実事業)
成果報告書

実施機関名 (市川市教育委員会)

1. テーマ

通級指導教室の運営と児童生徒への指導や支援について、専門家による助言を活かし、拠点校での実践研究と担当教員の研修会を充実させ、担当教員の専門性の向上を図る。

専門性充実事業の概念図

拠点校取組

担当者の専門性
指導力UP!

ハンドブック作成

教育委員会
研修

2. 問題意識・提案背景

個別の教育支援計画「市川スマイルプラン」の作成数は、過去4年間で倍増し、通常学級において支援を必要とする児童生徒が増加している。通級による指導の希望者も増えており、市川市では通級指導教室の設置を推進するとともに、巡回による指導を開始するなど、環境整備を図ってきた。将来的には各中学校ブロックに通級指導教室を設置し、担当教員を中心としたブロック内の学校の支援体制を構築したい。

しかしながら、担当教員は特別支援学校、特別支援学級の経験はあっても、通級による指導は初めてという教員が大半を占めている。また、各校一人配置の現状では、校内での研修の機会は少ない。

以上の状況から、医療機関や大学等の専門家による研修の機会を増やし、発達障害等の児童生徒の実態把握、指導方法の検討、保護者や学級担任との連携について、担当教員の専門性の向上を図り、さらには、学級担任の特別支援教育への理解と指導力の向上を図っていききたい。

3. 目的・目標

<目的>

通級指導教室の運営と児童生徒への指導や支援の在り方について、通級指導専門性充実検討会議を通じて医療機関や大学等の専門家と連携しながら実践研究を進め、担当教員の専門性の向上を図るとともに、学級担任の特別支援教育への理解と指導力の向上を図る。

<目標>

1. 保護者や学級担任からの情報をもとに児童生徒の実態を把握し、個別の指導計画を作成する。専門家の助言や指導を受けながら、PDCAサイクルにより修正を加え、保護者との面談や所属校への報告に活用する。
2. 児童生徒のプロフィールや諸検査、観察により、実態を適切に把握し、専門家の指

導、助言をうけながら、必要な支援と手立てを検討する。個別学習及びペア学習、小集団学習等、個々の実態に応じた効果的な指導方法・支援方法の充実を図る。

3. 保護者及び学級担任との連携を深め、通級指導教室と在籍学級及び家庭とで、指導・支援の情報を共有し、児童生徒への支援の連続性を図る。

4. 主な成果

1. 教育委員会での国立国際医療センター国府台病院医師と淑徳大学准教授による事例検討会、はなみずき特別支援教育研究所理事長の「読み書き障害のアセスメント」、心理士の「WISC - IV検査と解釈」等 11 回の研修により、実態把握、目標設定力の向上が図られた。(担当教員自己評価 1.3 ポイント上昇)
2. 拠点校での心理士による「目標設定、指導と評価 (6 回)」「LD 指導 (5 回)」、植草学園大学教授の「ICT 活用 (2 回)」「吃音等の指導と評価 (5 回)」など、継続的な研修により指導力の向上が図られた。(担当教員自己評価 1.2 ポイント上昇)
3. 通級指導専門性充実検討会議を通じ「市川市版通級指導教室ハンドブック」を作成する中で、各教室の運営方法、支援や連携の仕方について共通理解を図り、連携力が育成された。(担当教員自己評価 1.1 ポイント上昇)

5. 通級による指導における専門性のポイント

1. 通級による指導担当教員に必要な専門性
 - (1) 児童生徒の困難さを見極め、分析し、個別の指導計画での適切な長期目標、短期目標を作成できる「見立てる力」
 - (2) 児童生徒の見立てを基にして、適切な指導と支援を行う「指導力」
 - (3) 学級担任、保護者等、児童生徒を支援する関係機関等と共通理解を深めながら支援を進める「連携力」
2. 研修体制の構築のポイント
 - (1) 医療機関や大学等の専門家による研修会の充実
(教育委員会による年間 5 回の悉皆研修)
 - ア. 「感情コントロールの力を育てる関わり方」東京学芸大学教授
 - イ. 「事例検討会」(小学校) 国際医療センター国府台病院医師
(中学校) 淑徳大学准教授
 - ウ. 「読み書き障害のアセスメントと指導法」
はなみずき特別支援教育研究所理事長
「発達検査の理解と解釈」臨床心理士
「授業研究会」空の色はそらいろ代表

- (2) 発達障害等様々な障害種の研修会の充実
 - ア. 発達障害への理解と指導力の向上を図る研修会
 - イ. 特別支援学級（知的、肢体不自由）や視覚、聴覚、言語の研修会
- (3) 拠点校3校による研修会の充実
 - ア. 児童生徒の事例を持ち寄り、専門家からの具体的な助言を基に「個別の指導計画」の振り返りができる少人数の研修会
 - イ. 助言を求めたい時に参加できる、定期開催される研修会

6. 拠点校における取組概要

市川市立平田小学校・市川市立鶴指小学校（自閉症・情緒等）

①通級による指導開始時における目標の設定及び適切な評価の在り方の研究

- ・入級時の発達検査の読み取りと学級での観察、担任や保護者からの情報と希望等の聞き取りにより、児童の特性や状態をとらえ、目標を設定し、5月に個別の指導計画を作成した。（年度途中の入級者は、その都度作成する。）
- ・臨床発達心理士に、実際の指導の様子や個別の指導計画を見てもらい、実態把握、目標、指導内容、評価等についての助言を受け、適切な指導と評価に努めた。

②通級による指導の担当教員が通常の学級の担任との連携を深化させるための専門性の在り方の研究

- ・学級担任と年3回の連絡会を実施するとともに、連絡帳で児童の様子を伝え、必要に応じて連絡を取り合い、状況の共有に努めた。
- ・連絡会では、担当教員と学級担任が相互の教室を訪問し、「在籍学級での児童の様子」を担当教員が参観し、また「通級での指導」を学級担任が必要に応じて参観した。
- ・在籍学級の参観により、集団における指導において見落とされがちな児童の困難さや特性について具体的に伝え、集団の中での支援と手立てについて共に考えることができた。

③発達障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とする指導方法の研究

- ・「読み書きでつまづいている子どものアセスメントと支援」の研修の講師である「はなみずき特別支援教育研究所」の理事長に、引き続き拠点校での講師を依頼し、子供のアセスメントを基に、ひらがなを習得させるための具体的な指導方法について研修を継続し、LDの子供への指導に生かした。

④発達障害の状態に応じた各教科の内容を取り扱う際の「特別の指導」方法の研究

- ・植草学園大学准教授による「ICTの効果的な活用法」の研修において、コミュニケーション力を高め、読み書きの学習ができる方法を学んだ。開発されている様々なアプリが、子供が主体的に学びに向かうために活用できないか研究を進めた。
- ・校内の1、2年生の全学級で「ひらがな単語聴写テスト」を実施し分析した結果、担任が把握していなかった支援が必要な子供の存在が確認され、教室での支援につながった。

市川市立北方小学校

①通級による指導開始時における目標の設定及び適切な評価の在り方の研究

- ・入級時の子供の観察や発達検査の実施、保護者からの生育歴や主訴等の聞き取りにより、子供の特性や状態をとらえ、子供の将来像または通級終了時の姿を想定した長期、短期目標を設定し、5月に個別の指導計画を作成した。(年度途中の入級者は、その都度作成する。)
- ・吃音は、変化が表れにくく終了時の姿の想定が困難なため、長期の支援になりがちである。植草学園短期大学教授に児童生徒の実態把握の仕方、目標の立て方、指導内容、評価についての助言をもらい、検討し、適切な指導と評価に努めた。

②通級による指導の担当教員が通常の学級の担任との連携を深化させるための専門性の在り方の研究

- ・学級担任と年3回の連絡会を実施するとともに、毎月の学級便りなどを交換する際に子供の様子を伝え、必要に応じて連絡を取り合い、子供の状況の共有に努めた。
- ・連絡会では、担当教員と学級担任が相互に教室を訪問し、「在籍学級での子供の様子」を担当教員が参観し、「通級での指導」を学級担任が参観し、それぞれの場での子供の様子を観察した。
- ・通級指導教室での個別指導を参観することにより、集団における指導において見落とされがちな児童の困難さや特性が具体的に伝わり、集団の中での支援と手立てについて共に考えることができた。
- ・保護者を対象に「教えて！吃音のこと」の講演会を設定した。通級児の学級担任にも伝えたところ、通級児以外の保護者の参加が数名あり活発な質疑応答がされた。吃音児へどのように対応することが望ましいかの理解が深められた。

③発達障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とする指導方法の研究

- ・児童が自らの話し方の誤りに気づき、改善につなげるための音の弁別や発音をフィードバックする力を身に付け、言語的なコミュニケーションを促すための指導方法の充実に努めた。

④発達障害の状態に応じた各教科の内容を取り扱う際の「特別の指導」方法の研究

- ・校内の1、2年生の全学級で「ひらがな単語聴写テスト」を実施し分析した結果、担任が把握していなかった支援が必要な子供の存在が確認され、教室での支援につながった。

7. 今後の課題と対応

1. 自閉症・情緒等の通級による指導は、保護者の不安により終了に至らず、目標を達成していても卒業まで支援を継続することが大きな課題である。吃音児の通級による指導にも同様のことが言える。担当者からは、基本的には2年間で指導目標の達成が図れるとの認識があるため、指導開始時における実態把握、目標設定等の

「見立てる力」を育成し、学級担任と保護者と共に見通しを持てるように、「支援終了目標の設定及び評価手法」を明確にする個別の指導計画の作成を進めたい。

2. 「指導力」では、一人一人の障害の状態に応じた適切な目標と指導内容を定め、効果的な指導法の確立が課題である。通級による指導では、個別指導が基本ではあるが、まだ試みが少ないペア学習や小集団学習での指導方法とその効果について研究を進めたい。

また、さまざまな困難を抱える児童生徒が増えているため、視覚や聴覚、肢体不自由等の指導についての相談会や研修会を今後も設定していきたい。

3. 通級による指導に通う児童生徒は、自分の特性と向き合い、抱える困難さに対応する力と自分のよさに気づく力をつけている。しかし、その力は在籍学級でこそ発揮してほしいため、学級担任との連携こそが担当教員にとって最重要の仕事であり、課題である。それぞれの学級担任の状況を把握した上で、連携が進められるよう、ベテラン担当教員の連携の工夫を若手教員に引き継いでもらいたい。そのために、通級指導専門性充実検討会議を通じ「市川市版通級指導教室ハンドブックⅡ」の内容を充実させ、各教室での取組について共通理解を図りたい。

8. 拠点校について

(小学校 自閉症・情緒等)

拠点校名：市川市立 平田小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	74	3	66	2	53	2	71	2	65	2	56	2
特別支援学級	5		2		5		6		4		1	
通級による指導 (対象者数)	0		2		1		6		4		1	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	20	1	3	0	2	1	0	6	35	
拠点校名：市川市立 鶴指小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	61	2	71	2	76	2	83	3	77	2	71	2
特別支援学級	0		0		2		2		1		0	
通級による指導 (対象者数)	1		5		1		0		1		2	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	19	1	3	0	2	2	0	11	40	

拠点校名：市川市立 北方小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	29	1	37	2	42	2	32	1	35	1	47	2
特別支援学級	2		2		8		4		1		5	
通級による指導 (対象者数)	5		2		7		2		1		2	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	12	1	2	0	2	2	0		27	48

9. 問い合わせ先

組織名：

- (1) 担当部署 市川市教育委員会 学校教育部 指導課
- (2) 所在地 市川市南八幡 1-17-15 南八幡仮設庁舎 2階
- (3) 電話番号 047 (383) 9338
- (4) FAX 番号 047 (383) 9263
- (5) メールアドレス narumi-sugimoto@city.ichikawa.lg.jp